



東邦大学 佐倉だより



vol. **48**
2020.4.1

基本理念

- 医療の目的 質の高い医療を安全に提供する病院
- 病診(病)連携 地域に貢献する病院
- 教職員のあり方 人間愛を共有する病院
- 職場環境 楽しく明るくチャレンジする病院
- 生涯教育 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

東邦大学医療センター佐倉病院

発行：広報委員会・東邦佐倉会事務局

〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1

TEL 043-462-8811 (代) FAX 043-462-8820 (代)

URL <https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



Topics News

1 Executive Message

佐倉市一体の防災連携の取り組み：

第12回 救命と安全の連鎖研究会

副院長/医療安全管理担当/ 防災対策委員長

岡住 慎一

2 アピールしたい診療と研究：手術後改善に貢献できる麻酔管理 麻酔科 教授 北村 亨之

3 昇任紹介：循環器内科 准教授 清水 一寛/外科 講師 佐野 厚/眼科 講師 坂本 理之

4 医療連携だより：千葉県男女共同参画推進事業所表彰 千葉県知事賞を受賞 副院長 吉田 友英

4 第12回 医療連携セミナー、第9回 医療連携学術フォーラムを開催して：医療連携・患者支援センター長 吉田 友英
医療連携セミナー 次回開催予告

Executive Message

佐倉市一体の防災連携の取り組み： 第12回 救命と安全の連鎖研究会



副院長/医療安全管理担当
防災対策委員長

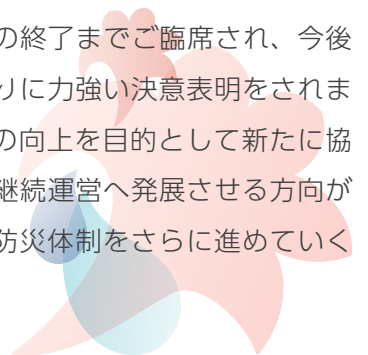
岡住 慎一

Shinichi Okazumi

佐倉病院では2016年3月の災害拠点病院指定を機会に、2008年から佐倉市八街市酒々井町消防と年1回共催してきた「救命と安全の連鎖研究会」を拡大して、行政（消防、市役所、保健所、警察）と市内中核病院（聖隷佐倉市民病院、佐倉中央病院、佐倉整形外科病院）、印旛市郡医師会長、佐倉地区医師会代表に出席を依頼し、佐倉市の災害時医療に携わる全部署が一堂に会して現状の課題を討議する場を設定し、顔の見える連携構築を進めてきました。第12回となる本年の研究会は1月25日に開催され、消防長の開会の辞の後、佐倉市

首都直下型等の大型地震が今後30年以内に70%の可能性で発生が予測され、特に近隣の千葉市は最も危険とされている状況です。また、昨年甚大な被害をもたらした大型台風は今後も繰り返される脅威となっています。東邦大学医療センター

長西田三十五様のご挨拶をいただき、消防から『令和元年度局地災害における活動報告』、佐倉市役所危機管理室から『災害に対する備え』、印旛健康福祉センターから『大規模地震時の患者搬送についての私案』とそれぞれ演題発表をいただきました。地域医療機関からは、聖隷佐倉市民病院から『今后来るべき災害（地震）の概要』、佐倉中央病院から『①当院での現状報告、②地域防災計画における中小病院の役割』の発表をいただきました。当院からは『令和元年度台風災害医療支援活動報告』、『救急現場におけるACP：advance care planningの方向性について』の報告を致しました。また今回、佐倉地域医療振興研究会会長にご出席いただき、市民の視点を代表して貴重なご意見をいただきました。西田市長は研究会の終了までご臨席され、今後のさらなる防災体制づくりに力強い決意表明をされました。今後は、連携体制の向上を目的として新たに協議会を設立して本連携の継続運営へ発展させる方向が提唱され、佐倉市一体で防災体制をさらに進めていく合意を得て終了しました。



手術予後改善に貢献できる麻酔管理

麻酔科 教授 北村 享之

東邦大学医療センター佐倉病院麻酔科は常勤医 10 名・非常勤医 4 名・初期臨床研修医 3 名前後で構成され、常勤医 10 名のうち、3 名が指導医、2 名が専門医です。現在、臨床業務は手術麻酔管理に専念しています。

手術患者に対して適切な鎮痛・鎮静・不動化・有害神経反射の防止を提供することは麻酔管理の重要項目ですが、手術医療における麻酔科医の役割はこれらにとどまりません。周術期に生じる様々な生理変化に適切に対処し、周術期合併症を防止し、術後回復を促進させ、予後改善に貢献することも重要な役割です。近年、高齢手術患者の割合が増加し、多彩な術前合併症に対処しなくてはならないように、大侵襲・高難度・長時間手術が増加していますの

で、手術関連合併症の予防目的に様々な対策を講じる必要があります。

心臓外科手術は大侵襲・高難度・長時間手術が多く、複数の術前合併症を抱えている症例も少なくありません。当科では、心臓外科手術の予後改善目的に、人工膵臓 STG-55 (写真 1) を用いた周術期血糖管理と血液凝固分析装置 TEG6s (写真 2) を用いた止血・凝固能管理を行っています。

適切な周術期血糖管理 (高血糖回避・低血糖回避・血糖変動抑制) は手術予後改善のために重要です。心臓外科手術を対象とする臨床研究は、高血糖が手術予後増悪因子であることと、術中強化インスリン療法を施行した場合の低血糖発作の危険性を報告しています。手術中に麻酔科医がマニュアル法で血糖管理を行う場合には、インスリン過量投与による低血糖やインスリン投与不足による高血糖持続が生じ、結果として血糖値変動が大きくなります。人工膵臓 STG-55 は、連続的に血糖値を測定し、血糖管理目標値に応じてインスリンまたはグルコースを自動投与するので、低血糖の危険性を排除しつつ高血糖を回避することが可能となり、安定した血糖値 (血糖変動の最少化) が得られます。現在、心臓外科手術の周術期血糖管理における人工膵臓設定 (目標血糖値など) の最適化を目的とした臨床研究を実施しています。

心臓外科手術では安全な人工心肺管理のためにヘパリン投与による血液凝固管理が必須です。人工心肺を用いないオフポンプ冠動脈バイパス術でもヘパリン投与による血液凝固管理は必要です。心臓への直接的な手術操作後はプロタミンでヘパリンを拮抗しますが、その後も継続的な止血・凝固能管理が重要です。適切な止血・凝固能管理により術後出血のリスクが軽減されるだけでなく、輸血療法の適正化にもつながります。血液凝固分析装置 TEG6s を用いることで凝固因子活性・ヘパリンの残存効果・血小板機能・フィブリノゲン濃度の評価が可能になります。検査手技自体は非常に簡便であり、短時間で検査結果が得られます。実際に TEG6s を用いることで心臓外科手術中の止血・凝固能管理が適正化されたという実感を持っています。

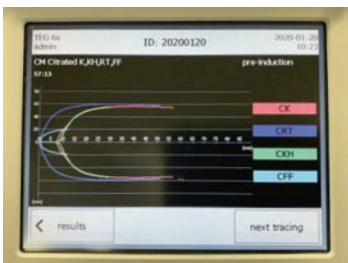
今回は心臓外科手術の麻酔管理における当科の取り組みを紹介しました。当科では手術予後改善に貢献できる麻酔管理をテーマとして臨床・教育・研究を実践しています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



写真 1 : 人工膵臓 STG-55



写真 2 : 血液凝固分析装置 TEG6s



昇任紹介



循環器内科 准教授

清水 一寛 しみず かずひろ

2019年12月、内科学講座准教授を拝命いたしました循環器内科の清水一寛と申します。血管機能の解明をテーマにしております。我が国では急速な人口の高齢化に伴い、毎年約35万人の新規に不全患者さんが発生しており、その対策は急務であります。当科では、血管病に対する最新カテーテル治療、患者さんの状態を整え再発予防に向かう心臓リハビリテーション、高齢化社会で増加する不整脈治療に対し、医局

員および技師や理学療法士、看護師と協力しチーム医療にあたっております。毎月開催しております心臓リハビリテーション症例検討会においては、医師、理学療法士、看護師の視点から一人の患者さんを病気だけでなく、社会背景なども掘り下げた症例検討会を行っております。至らない点もございますが、一例一例真摯に対応していきますので、地域の先生方におかれましては、是非東邦大学医療センター佐倉病院 循環器内科を頼りにして頂ければと存じます。



呼吸器外科 講師

佐野 厚 さの あつし

2019年4月より東邦大学医療センター佐倉病院外科に勤務しており、2020年1月より講師に昇任しました。呼吸器外科を専門として手術を中心とした診療をしています。

2000年3月に東京大学を卒業し、三井記念病院外科に4年勤務したのちに東京大学呼吸器外科医局で大学病院勤務・関連病院勤務・大学院博士課程・留学（オーストリア・ウィーン）を経験してきました。この間にさまざまな呼吸器

外科手術（肺癌・胸腔鏡・呼吸器感染症・肺移植など）や呼吸器外科救急診療（気胸・胸部外傷）を行っています。この経験を生かし、呼吸器内科と協力して地域で完結できる呼吸器診療を作り上げていきたいと思っております。

それに加えて日本DMAT隊員として災害医療にも携わっています。2015年の茨城水害、2019年の千葉水害において隊員として被災地で活動を行いました。災害医療においても役立てるよう体制づくりをしていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。



眼科 講師

坂本 理之 さかもと まさし

1月より東邦大学医療センター佐倉病院 眼科学講座講師に拝命致しました坂本理之と申します。大阪の多根記念眼科病院で主に手術を習得させていただいたのち、ご縁があって2015年4月より当院に赴任致しました。眼科の分野は角膜、緑内障、網膜硝子体から涙道疾患、神経眼科など多岐にわたりますが、小さい器官のため各々が密接にかかわります。そのため、私は

専門分野を持たず包括的に診療できるようにと日々精進しております。当医局は主に臨床や手術に興味を持った若い医師が多く、少しでも良い指導ができるようにと頑張っておりますが、それも近隣の先生方からのご指導があるからこそと実感しております。今後も当医局員と切磋琢磨し、より良い眼科診療を提供したいと考えておりますので、地域の先生方におかれましては今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医療連携だより

TOHO UNIVERSITY SAKURA MEDICAL CENTER × IRYO RENKEI

千葉県男女共同参画推進事業所表彰 ～千葉県知事賞を受賞～

副院長 吉田 友英

男女が共同して参画することのできる環境づくりに積極的に貢献している事業所を表彰し、その取組をたたえるとともに、これを広く紹介することにより、労働の場における男女共同参画の取組を促進し、もって男女共同参画社会の形成に資することを目的として県が表彰しています。今回、学校法人東邦大学 習志野キャンパス、医療センター佐倉病院が、先駆的な取組を行っており、他の模範となる事業所として千葉県知事賞を受賞しました。令和2年1月23日表彰式にて森田健作知事から表彰状が授与されました。



千葉県知事賞 表彰状



千葉県男女共同参画推進事業所表彰式での集合写真

第12回 医療連携セミナー、 第9回 医療連携学術フォーラムを開催して

医療連携・患者支援センター長 吉田 友英

第12回 医療連携セミナーは、2019年12月4日(水)に開催し、院外から25名ご参加をいただきました。「眼底出血による紹介からメタボリックサージェリーに至った腎症合併肥満糖尿病の1例」と題して、糖尿病・内分泌・代謝内科助教 渡邊康弘よりご紹介された症例報告を、同内科 准教授 齋木厚人より「肥満症は“栄養凸凹症”～じつは多い低亜鉛血症～」の特別講演を行いました。どちらも診療科を超えての多くのご質問、また最先端の医療について学ぶことができたとのコメントもいただき、有意義なディスカッションの場となりました。講演会終了後は立食形式の情報交換会を開催し、遅い時間にもかかわらず大勢の方にご参加いただきました。

第9回 医療連携学術フォーラムは、2020年2月1日(土)に開催し、医師のみならず多職種302名のご参加をいただきました。第1部 講演会では「最新の乳癌外科治療」と題して、外科 教授 榊原雅裕より講演を行い、続いて「在宅医療って何ですか?～病診連携のための基礎知識～」と題して、さくら風の村訪問診療所 院長 三嶋泰之先生よりご講演いただきました。第2部 懇親会では、日頃お世話になっている医療関係者の皆様に感謝の意を表すとともに、より一層の「顔の見える医療連携」を深めることができたと思っております。

第13回 医療連携セミナー 開催延期のお知らせ

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大を防止のため、2020年5月21日(木)に開催を予定の「第13回 医療連携セミナー」は2020年8月27日(木)に延期と致します。

誠に申し訳ありませんが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

また「第14回 医療連携セミナー」は心臓血管外科をテーマに2020年10月1日(木)に開催を予定しております。

各セミナーのお申し込み等につきましては、7月発行の本紙にてお知らせ致します。

公開講座スケジュール 佐倉病院公開講座のお知らせ

『非常事態宣言』が出されました!

新型コロナウイルス感染症は日々状況が変わっており、深刻な状態になっております。今後の見通しが立ちません。皆様の安全を確保する上でも、しばらくの間、公開講座を中止することになりました。秋以降に状況をみながら開催を検討致します。

また、診療につきましては可能な範囲で通常診療を行います。原則、予約・紹介患者さんのみの対応となります。今後、診療体制が変わりますのでご注意ください。

皆様におかれましてはくれぐれも気をつけていただき、感染対策にご理解とご協力をお願い申し上げます。

開催予定日時	講演テーマ	担当
4月		休会
5月	中止	
6月	中止	
7月	中止	
8月		休会

東邦大学医療センター佐倉病院
臨床病理症例検討会 開催予定
(場所: 東棟7階講堂)

●第209回: 5月20日(月) 18時00分～ 7階講堂
●第210回: 6月17日(月) 18時00分～ 7階講堂
●第211回: 7月25日(木) 18時00分～ 7階講堂

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大を防止のため、公開中止と致します。
(問い合わせ先: 教育支援室)